

フリータウン小児医療センターサービス向上プロジェクト（国際協力機構 JICA）

大阪赤十字病院 国際医療救援部 看護師 池田載子

派遣期間 2026 年 2 月 2 日～3 月 17 日

シエラレオネ共和国にて、小児専門病院の医療サービスの質の向上のため、短期専門家として支援活動を行いました。本来、3 月末で終了予定でしたが、現在使用している新病院の建物の完成が 1 年以上遅れたため、事業は 2026 年度末まで延長されることになりました。あと 1 年間で、できるだけ看護の質を向上させるために、現地スタッフとともに、さらなる看護の質の向上に取り組んでいきたいと思っています。

現在活動しているフリータウン小児医療センター（JMB-PCE : Dr. Julius Maada Bio Pediatric Centre of Excellence）は、昨年 10 月に救急外来と新生児・未熟児特別ケア病棟（計 22 床）が開設しましたが、それ以外の病棟は今も稼働していません。病院建て替え以前に支援していた Ola During Children Hospital は西アフリカ内科医会（West African College of Physicians: WACP）の認証を受けており、研修医の教育機関として機能していました。一方、JMB-PCE はまだこの認証を得ていないため、ここでの勤務が単位として認められません。そのため医師が JMB-PCE で勤務したがないという状況のため、いくら保健省が医師を配置しようとしても状況が改善していません。今年度中に、認証の再審査が予定されているため、両病院が研修病院として認定されることが期待されています。

看護の質については、徐々に改善がみられています。これまでの課題だった VS の定時測定や看護記録の記載も、日常業務としてようやく定着してきたように感じています。新しく採用された看護師も、同様の実践を行っており、全体として一定の水準が保たれています。看護実践の質をモニタリングするため、週 1 回に看護記録や実践内容をチェックしてきていましたが、達成率は常に 90%以上を維持しているため、モニタリング回数を 4 月から月 2 回に減らし、経過を見ていく予定です。

今回の派遣で特に大きな改善が見られたのは、医療事故（インシデント・アクシデント）に関する活動です。日本では、インシデントやアクシデント報告をすることはごく当たり前のことで、事故に至らなかった事例（いわゆるヒヤリ・ハット）も含めて報告し、再発防止に活かすことが一般的です。しかし、シエラレオネでは、報告様式そのものもなければ、提出されたこともありません。医療事故の影響の大小にかかわらず、ミスをしたことで非難や処罰の対象となるのではないかという考えがあり、自分から報告するという医療安全の文化そのものがありません。インシデント・アクシデントに対し間違った認識を持つ職員が多い中、訪日研修に参加した研修員の方々は、日本でのインシデント・アクシデントの現状を自分の目を見て、報告、そして分析し、改善していくことの重要性を実感してくれていました。研修後の目標の一つにも医療安全の文化の醸成を挙げていたほどで

す。

私は 2 月から現地入りしたのですが、すでに 1 月に数例のインシデントレポートが提出されていました。記載漏れやインシデントのサマリーの内容が乏しく状況がわからないなどの問題がありました。そこで、再度インシデントレポートの書き方、特にサマリーについて重点的に講義を行いました。また、針刺し事故などの曝露事故も多かったので、新たに専用のテンプレートを作成しました。インシデントが発生した場合は、その場で一緒に記録を作成するなど、報告の習慣づけを進めました。その結果、1 月～3 月末までに、計 20 例のインシデントレポートが提出されました。さらに、データベースを構築し、毎週分析結果をスタッフにフィードバックしました。特に印象的だったことは、個人を責める発言が一切なく、「どうすれば再発を防げるか」という前向きな議論が行われたことです。

分析の結果、体液の曝露事故が予想以上に多いことが明らかになりました。HIV に曝露している患児に対しても、看護師はマスクやゴーグルなど个人防护具を適切に使用していないため、飛沫などにより曝露しているケースが複数見られました。そのため、各病棟に个人防护具を確実に配置し、適切な使用を徹底する取り組みを始めました。

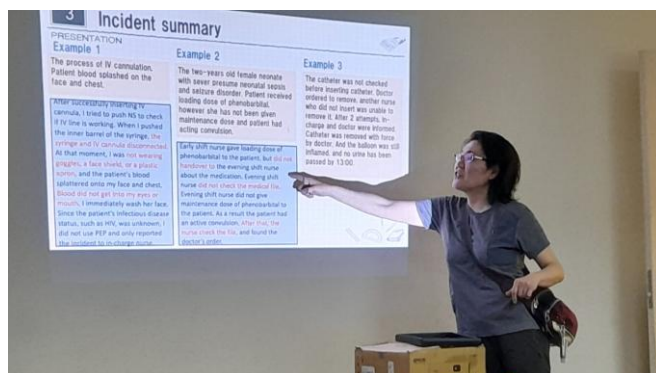
インシデントレポートに関しては、もちろんまだまだ課題はあります。現在、レポートの提出は看護部門に限られており、また実際にインシデントを起こした当人ではなく、上長などが代わりに報告するケースがほとんどです。医療安全の文化の醸成には何年もかかると考えています。しかし、継続的に取り組みを進め、医療・看護の質の向上につなげていきたいと思っています。



インシデント・アクシデントの
フィードバックを行っているところ



治療のアルゴリズムや投与量を提示し、
新人医師や看護師のミスを予防



インシデントレポートの
レクチャーを実施

これらの写真は、今回の報告書には詳しく記載しませんでした、病院周辺の医療施設を訪問したときの様子です。診療所や病院から後送されてくる新生児などの状態が紹介状に全く記載されていないことが多く、情報提供の重要性や作成した紹介状の書き方、JICAが支援している母子手帳の使用方法を指導していました。



診療所で診察を待つお母さんと子ども



母子手帳を用いた児の情報共有を指導



病院の看護チームと一緒に診療所を訪問